

緊急輸送道路ネットワーク整備計画の改定について

現行の緊急輸送道路ネットワーク整備計画は、近い将来、発生が懸念される南海トラフや内陸型地震などの超広域災害に備えるため、救急搬送や物資輸送などに必要な緊急輸送道路ネットワークについて、集中的に整備するため平成26年度に策定しました。

この度、令和6年能登半島地震における甚大な災害や、気候変動による激甚化・頻発化する災害を踏まえ、地震だけでなく、豪雨や大雪等の複合災害に対しても、緊急輸送道路のネットワーク機能を確保するため、新たな対策を加え本計画を改定しました。

なお、今回改定した計画の一部は、岐阜県強靱化計画に重点施策として位置づけ整備を進めていきます。

<整備計画の内容>

これまでの対策	新たな対策（別紙参照）
1 「道路拡幅」	1 「道路拡幅」
2 「斜面对策」	2 「斜面对策」
3 「橋梁耐震」	3 「橋梁耐震」
4 「路面陥没対策」	
4 対策	4 「橋梁の段差対策」
	5 「横断歩道橋の耐震」
	6 「谷埋め盛土の補強対策」
	7 「アンダーパス排水施設の耐震」
	8 「除雪基地の整備」
	9 「除雪機械の増強」
	10 「監視カメラの増設」
	11 「道路情報表示板の増設」
	12 「沿道樹木の伐採」
	13 「無電柱化」
	14 「トンネル照明のLED化」
	15 「道路照明のLED化」
	16 「案内標識の視認性向上」
	17 「道の駅の防災拠点機能の強化」
	18 「道の駅・除雪基地への災害時応急対策用資機材備蓄拠点の整備」
	18 対策

【国内で発生した主な自然災害※1と被害※2】

平成7年の阪神大震災以降、国内を襲った主な災害（地震及び豪雨・豪雪）により発生した被害を抽出

1995 ● 阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）

：

2000 ● 鳥取県西部地震

2001 ● 芸予地震

：

2003 ● 十勝沖地震

2004 ● 平成16年7月新潟・福島豪雨、福井豪雨、新潟県中越地震

2005 ● 平成18年豪雪

2006 ● 平成18年7月豪雨

2007 ● 能登半島地震、新潟県中越沖地震

2008 ● 平成20年8月末豪雨、岩手・宮城内陸地震

2009 ● 平成21年7月中国・九州北部豪雨

：

2011 ● 平成23年7月新潟・福島豪雨、東日本大震災

2012 ● 平成24年7月九州北部豪雨（東北地方太平洋沖地震）

：

2014 ● 平成26年8月豪雨

2015 ● 平成27年9月関東・東北豪雨

2016 ● 熊本地震

2017 ● 平成29年7月九州北部豪雨

2018 ● 平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震

2019 ● 令和元年房総半島台風、東日本台風

2020 ● 令和2年7月豪雨

： 強い冬型の気圧配置による大雪（2020.12.14～12.21）

2024 ● 令和6年能登半島地震

：

：

：

：

：

：

：

：

：

：

：

：

：

：



出典：阪神・淡路大震災
一近畿地方整備局の記録－
（国土交通省）



出典：東日本大震災の記録－
国土交通省の災害対応－
（国土交通省）



出典：岐阜県における主な被害状況等
（令和2年7月豪雨）（国道41号の被災状況）



出典：令和6年度能登半島地震
専門調査結果（中間報告）

※1：気象庁で名前が定められた地震・気象現象及び気象庁に掲載されている「災害をもたらした気象事例」から抜粋

※2：下記資料から被害状況を把握

・第四期岐阜県地震防災行動計画【令和2年度～6年度】
・阪神・淡路大震災近畿地方整備局の記録－
・無電柱化の推進（国土交通省）
・災害列島2005、2012
・東日本大震災の記録-国土交通省の災害対応－
・東日本大震災仙台市東区記録誌～発災から1年間の活動記録～
・平成30年北海道胆振東部地震 北海道開発局災害対応の記録
・令和2年7月豪雨球磨川水害伝承記～後代に残す記録～
・令和2年7月豪雨災害検証報告書の概要（岐阜県）
・令和2年度豪雪における被害状況等（新潟県）
・12月16日からの大雪による被害状況等について（内閣府）
・令和3年版 防災白書
・防災ガイドブック（大牟田市）
・北國新聞（2024.1.5記事）
・令和6年能登半島地震 専門調査結果（中間報告）

【インフラへの被害】

・高速道路や国道、高架橋の倒壊、落橋等により交通網が寸断
・倒壊家屋によって道路が封鎖され通行不能箇所が続出した
・沿道の電柱が倒壊し、緊急車両の通行や生活物資の輸送に支障

①道路の損傷 ②橋梁等の損傷 ⑦電柱の倒壊 ⑨道路網の寸断

地震

【インフラへの被害】

・道路が6,000箇所以上で損壊、合わせて241箇所の国道・県道が通行止めとなり、鉄道の運休も含め一時、中越地方と首都圏の交通網は完全に寸断。また、中山間地域で地滑り、落石、土砂崩壊等により道路網が寸断され、多数の集落が孤立した

①道路の損傷 ⑨道路網の寸断

地震

【インフラへの被害】

・津波による道路橋の流出や法面崩落等により、高速道路、国道、県道等で通行止めが発生。また、防災拠点施設や避難所に至る道路において、沿道建築物の倒壊あるいは外壁の落下、電線の断線、がれきの散乱などにより通行に支障を来した
・地震とそれに伴い引き起こされた液状化現象や地盤沈下等により、広範囲にわたるインフラ・ライフライン等に被害が発生
・仙台市内の国道4号において、歩道橋が落橋する被害が生じた

①道路の損傷 ②橋梁等の損傷 ⑨液状化・地盤沈下 ⑦電柱の倒壊

地震

【インフラへの被害】

・国道・道道・高速道路を合わせて22路線30区間で通行止めが発生
・震源から離れた札幌市や北広島市において大規模な液状化被害が発生
【その他の被害】
・日本で初めてとなるエリア全域に及ぶ大規模停電（ブラックアウト）が発生。道内全域で最大約295万戸が停電、概ね全域に供給できるまで45時間程度を要した
・崩壊面積13.4km²もの大規模崩壊が発生し、膨大な土砂と倒木が発生。地震による死者のうち約8割が土砂被害によるもの

①道路の損傷 ③液状化・地盤沈下 ⑥倒木 ⑧電力需要の逼迫

地震

【インフラへの被害】

・土砂流出や法面崩落、路肩崩落、道路損壊、橋梁の流失等が発生。氾濫危険水位超過により全面通行止めも頻発し、一時孤立集落も発生。岐阜県においても中濃から飛騨地方を中心に、河川の増水により国道41号の一部が損傷する等の被害が発生

・福岡県大牟田市ではアンダーパスが冠水

【その他の被害】

・浸水や土砂災害により多くの家屋が被災。多くの人的被害をたらした
・水害や土砂崩れにより停電や断水が発生。また、防災行政無線の一部不通やインターネットや電話の回線の断線により、住民への情報伝達や気象情報の収集等に支障を来した

①道路の損傷 ②橋梁等の損傷 ④冠水 ⑨道路網の寸断

豪雨・台風



出典：防災ガイドブック（大牟田市）

豪雪 による被害（R2.12～R3.1の大雪による災害）

・大雪により多くの大型車両が立ち往生し、交通渋滞や通行止めが発生
・雪により鶏舎やビニールハウス等の倒壊被害が発生
・除雪作業中の事故等による死者が相次いだ
・倒木による断線等による停電や孤立集落が発生

⑤積雪 ⑥倒木 ⑨道路網の寸断



出典：令和3年版防災白書（内閣府）

地震

【インフラへの被害】

・橋台背面において小規模な段差が多数発生。また、液状化により1.5m地盤が沈下する被害も発生
・斜面崩壊、地すべり等により道路の交通機能が途絶した区間が多数発生し、孤立集落が発生。観光地である「白米千枚田」では、被災した観光客が道の駅に取り残された

①道路の損傷 ②橋梁等の損傷 ⑨道路網の寸断

【抽出した被害に対し、緊急輸送道路ネットワークの機能を確保するための対策】

抽出した被害	必要な対策（太字：追加の対策）
①道路の損傷	・道路拡幅 ・斜面对策 ・谷埋め盛土の補強対策
②橋梁等の損傷	・橋梁耐震 ・橋梁の段差対策 ・横断歩道橋の耐震
③液状化・地盤沈下	・谷埋め盛土の補強対策（再掲）
④冠水	・アンダーパス排水施設の耐震
⑤積雪	・除雪基地の整備 ・除雪機械の増強 ・監視カメラの増設 ・道路情報表示板の増設

抽出した被害	必要な対策（太字：追加の対策）
⑥倒木	・沿道樹木の伐採
⑦電柱の倒壊	・無電柱化
⑧電力需要の逼迫	・トンネル照明のLED化 ・道路照明のLED化 ・案内標識の視認性向上 ・道の駅の防災拠点機能の強化
⑨道路網の寸断	・道の駅・除雪基地への災害応急対応用資材備蓄 拠点の整備

抽出した被害

主に地震による被害

①道路の損傷
②橋梁等の損傷
③液状化・地盤沈下

その他の災害による被害

④冠水
⑤積雪

管理外施設の被害等による
道路・社会生活への被害

⑥倒木
⑦電柱の倒壊
⑧電力需要の逼迫

⑨道路網の寸断